

魚津総合公園における鳥類の季節変動

木村知晴・稲村 修 (魚津水族館)

Seasonal variation of birds in the Uozu comprehensive park.

Tomoharu KIMURA Osamu INAMURA

Uozu Aquarium

諸言

魚津総合公園（以下：総合公園と略す）は富山県魚津市西端部に位置し（図1）、1984年に早月川右岸の河口近くに整備された都市公園である。総合公園には魚津水族館、遊園地（ミラージュランド）、パークゴルフ場などがある。駐車場や広場は周年利用可能であるが、パークゴルフ場と遊園地は4月から12月初旬までの営業となっている。魚津水族館の横にある広場とパークゴルフ場の中や周辺には、多数の松や桜などが植樹されている。広場では春と秋に多くの鳥類が見られるが、その出現状況についての調査は行われていない。そこで、総合公園の広場周辺に出現する鳥類の組成や周年変化を把握するために調査を行った。

調査方法

調査は予備調査と本調査を行った。

2016年4～7月に行った計10回の予備調査では、総合公園の桜並木と隣接する水田や墓地とを行き来する鳥類が多く見られた。そこで本調査では、隣接する水田や墓地も含めた調査区（約6.3ha）を決定した（図2）。

本調査は2016年8月～2017年7月の期間とし、おおよそ週1回の頻度で合計48回行った。調査は晴天または曇りの日に実施し、調査時刻は12時25分～55分までの30分間とした。調査ルートは魚津水族館の裏を始点・終点として、調査

区内全体を見られるように設定しており、毎回同じルートを歩いた。調査には8倍の双眼鏡と25～60倍の望遠鏡を用いて、平均時速約2.8kmで歩行しながら調査区内に出現した鳥類を目視で判別し、種類と個体数を記録した。上空を飛行している鳥類に関しては、調査区の上空を通過した鳥だけを記録した。

また、調査開始時に始点近くの日陰の気温を記録し、積雪時には積雪量も記録した。野外調査および種の同定は、著者の一人である木村が行った。

結果

10回の予備調査では、合計6目21科32種629羽の鳥類が出現した。48回の本調査では、合計11目27科56種2,673羽の鳥類が出現した（表1）。予備調査と本調査を合わせると、11目29科63種の鳥類が記録されたが、そのうち種の同定ができたのは61種であり2種は不明種として扱った。

本調査において、1日当たりの出現種数で最も多かったのは2017年4月21日の20種、最も少なかったのは2016年8月8日の4種で、平均では11.1種であった。一方、1日当たりの出現個体数で最も多かったのは2017年4月17日の187羽、最も少なかったのは2016年8月17日および12月2日の14羽で、平均では55.5羽であった。

最も出現頻度が高かった種はハシボソガラス (45 回) で、次いでカワラヒワ (44 回)、シジュウカラ (36 回) であった。個体数が最も多かったのはカワラヒワ (685 羽) で、次いでスズメ (401 羽)、ムクドリ (294 羽) であった。逆に、調査において 1 羽しか出現しなかった種は、イカルチドリ・イソシギ・ノスリ・チョウゲンボウ・ウグイス・コルリ・ジョウビタキの 7 種であった。

調査開始時の気温は、最高で 2017 年 7 月 22 日の 34℃、最低は 2017 年 1 月 16 日の 1℃、平均で 17.1℃であった。積雪量は、2016 年 12 月 16 日に約 3 cm、2017 年 1 月 16 日に約 25 cm、2017 年 1 月 25 日に約 20 cm、2017 年 2 月 12 日に約 15 cm であったが、他の日は積雪がなかった。

考察

富山県において 2000 年までに記録された鳥類は 313 種である (松木, 2012)。その後、シロハラミズナギドリやハクガンなどが新たに確認され (日本野鳥の会富山, 2018)、現在では 320 種ほどが確認されている。今回の調査で確認されたのは、予備調査 32 種と本調査 56 種、合わせて 61 種であり、富山県で確認されている鳥類の約 19% の種が出現したことになる。

これまでの富山県の記録では、2016 年に入善町の「杉沢の沢スギ (8.17ha)」で、49 種の鳥類が確認されており (伊林, 2018)、その内の 36 種 (73.5%) が総合公園でも出現したことから、杉沢の沢スギと総合公園の鳥類相が非常に近いことが示された。両所を比較してみると、植生は杉沢の沢スギは杉林であり、総合公園は桜並木と松林と大きく異なっていた。しかし、山地から離れて海岸沿いに位置していることや、周囲

が水田に囲まれている点が共通しており、このような環境的な特徴が影響していると考えられた。

次に、松木 (2012) は富山県の鳥類リストを、富山県内で一年中観察され県内で繁殖する「留鳥」、春に富山県よりも南方から渡ってきて繁殖し夏から秋に再び南方へ去る「夏鳥」、秋に富山県よりも北方から渡って来て越冬し春に再び北方に去る「冬鳥」、富山県よりも北方で繁殖し南方で越冬し富山県では春と秋に観察される「旅鳥」、富山県が渡りのコース上に位置しないため本来は富山県に渡来しないと考えられる「迷鳥」に分類している。本調査で種判別ができた 54 種を松木 (2012) に従って分類すると、留鳥が 30 種と最も多く、夏鳥 12 種、冬鳥 11 種、旅鳥が 1 種であり、迷鳥は記録されなかった (図 3)。

月ごとの個体数と種類数は、いずれも 4 月が最も多く、8 月が最も少なかった (図 4)。ただし、2016 年 8 月 31 日のデータは 9 月分として集計した。3~5 月は鳥類の渡りの季節であり、特に 4 月は冬鳥と夏鳥が共に見られたため種類数および個体数が増加した。

4~5 月には留鳥と夏鳥が主に見られたが、6~8 月にはツバメを除く夏鳥が減少し、キセキレイだけは冬鳥のように 11~2 月に出現した (図 5)。ツバメは調査区に隣接する魚津水族館などの建物で繁殖を行っているが、その他の夏鳥は総合公園周辺で繁殖せず、渡り時の中継地点として総合公園を利用したと考えられる。一方、キセキレイは本州中部の北アルプス地方では標高 1500 m 以下の湖沼、河川、溪流、湿地、水田、村落などに生息し、主として人家近くで繁殖する (清棲, 1979)。また、富山県中央部

に位置する呉羽丘陵においても、キセキレイは8～4月にかけて毎月確認されている（高橋，2017）。したがって富山県のキセキレイは留鳥であるが，山地で繁殖し，それ以外の季節は低地に移動している可能性が高いことが分かった。

5～6月にはハシボソガラス・シジュウカラ・ツバメ・ムクドリ・スズメ・ハクセキレイ・セグロセキレイの7種の巣立後間もないと思われる幼鳥を確認しており，これらは総合公園内やその周辺で繁殖していると考えられた。一方，留鳥で雑木林や庭木などで繁殖するモズ・ヒヨドリ・メジロは，5～8月の繁殖期にほとんど出現しなかった。これは，総合公園の木は広い間隔で一列に植えられており，さらに定期的な剪定により茂った樹木が少ないことから，これらの鳥類の繁殖に適さないと考えられた。

また，総合公園では毎年6～7月に桜などの樹木に1～2回程度の殺虫剤散布を行っており，予備調査期間の2016年7月12日と本調査期間の2017年7月8日に実施された。殺虫剤散布の直接的な影響や鳥類の餌となる昆虫類が減少したために，7月と8月に鳥類の出現が少なかった可能性も考えられる（図6）。

9月はコサメビタキやオオルリ等の夏鳥が，少数だが再び観察された。秋の渡りのシーズンに入り，夏鳥が南下する途中で総合公園に立ち寄ったと考えられた。また，11月からは単発的に冬鳥が見られるようになり，総合公園を中継して南方の越冬地に向かったものと推測された。

総合公園では毎年10～11月に樹木の剪定が行われており，調査期間中では2016年11月20～23日に実施された。剪定の直後には，鳥類の種数や個体数がやや減少する。

傾向がみられた（図6）。鳥類の主な利用場所である樹木の剪定が，短期的ではあるが鳥類に影響を与えている可能性が示唆された。

12～4月にかけて複数回記録されたシロハラ・ツグミ・アトリ・シメ・カシラダカは，総合公園周辺を越冬地として利用していると考えられた。また，調査期間中の降雪は例年に比べると少なかったことから，地上採食性のツグミやシロハラが総合公園で越冬できた可能性もある。

気温や降雪と鳥類の種数や個体数の変動との関係を見ると，夏場では関連性は認められなかったが，気温が5℃以下となり，積雪が見られた日には種類数が僅かだが多くなる傾向がみられた（図6）。これは，総合公園が海沿いの比較的降雪の少ない場所に位置することから，降雪により平野部や中山間部にいた多くの鳥類が移動してきていると考えられた。

鳥類の出現状況の年変動から，総合公園を繁殖地や越冬地として利用する種は少ないが，渡り鳥が種数も個体数も多く確認されたことから，総合公園は渡りの重要な中継地点であることが示された。富山県の平地は主に河川の扇状地で形成されており，大きな林はほとんどない。総合公園のように富山平野の海沿い存在する緑地は貴重であり，鳥類の保全を考えるうえで，非常に重要と考えられる。

謝辞

有益な資料や情報を提供して頂いた日本野鳥の会富山の伊林早苗氏並びに石崎友紀子氏に深く御礼申し上げます。

引用文献

伊林早苗, 2018. 杉沢の沢スギの野鳥
—2005年, 2016年の調査を比較して—.
黒部川扇状地第43号 p37-43.

清棲幸保, 1979. 増補改訂版 日本鳥
類大図鑑 I. 株式会社講談社, 東京, p127.

松木鴻謔, 2012. バードウォッチングに
行こう! 富山県の探鳥地. 桂書房, 富山,
p153.

日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録改訂第
7版.

日本野鳥の会富山 (会報), 2018. 愛鳥
第74号.

高橋輝男, 2017. 富山市ファミリーパー
クの鳥類相. 富山の生物 56, 98-103.

富山県, 2012. 富山県の絶滅のおそれの
ある野生生物 レッドデータブックとやま
2012. 富山県.



図1 調査地点 魚津総合公園：赤枠
(国土地理院地図より作図)



写真1 魚津総合公園の桜並木



図2 調査区：赤枠
(国土地理院地図より作図)

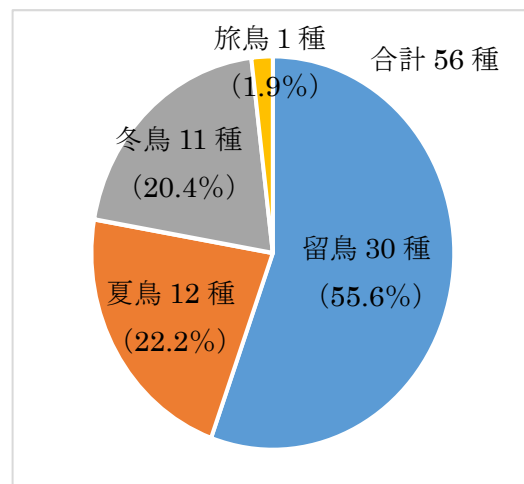


図3 留鳥・夏鳥・冬鳥・旅鳥の割合

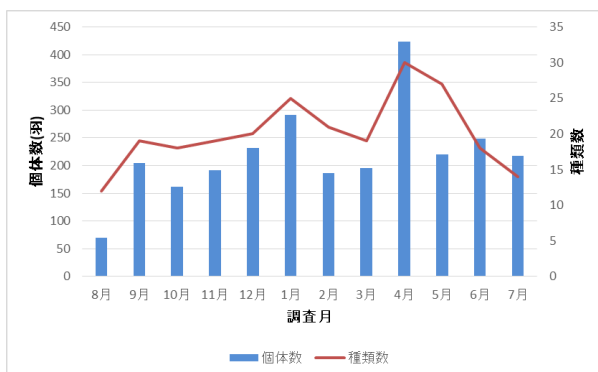


図4 鳥類の各月の出現状況

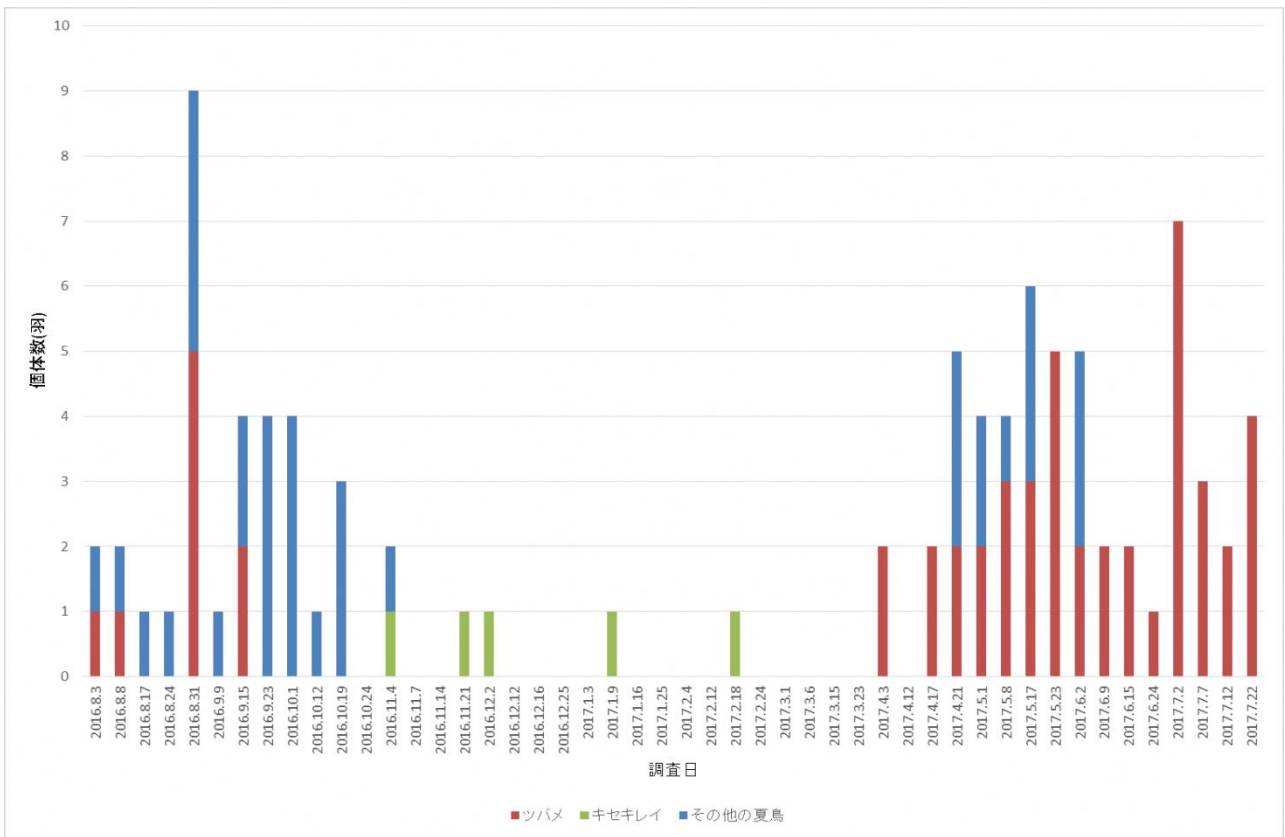


図5 夏鳥の出現状況

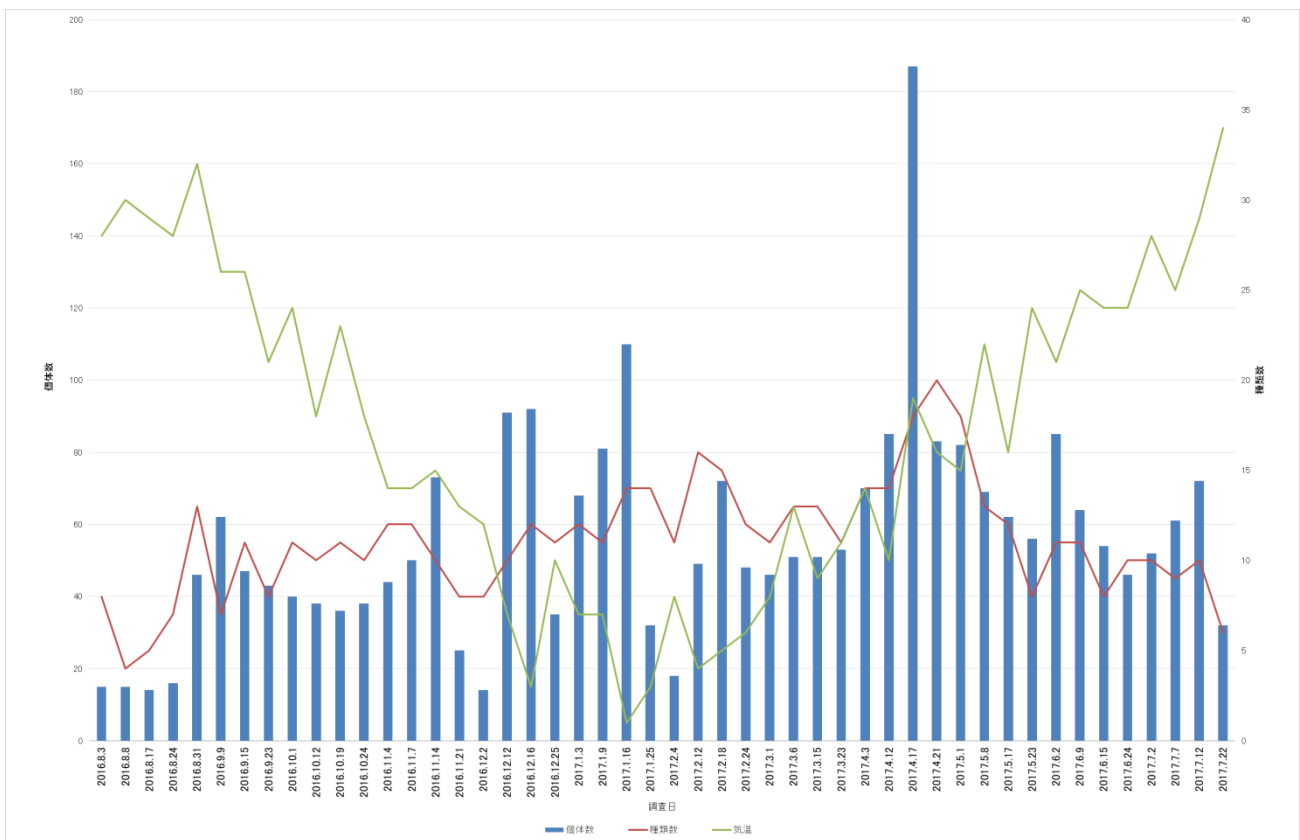


図6 出現個体数及び種類数の変動と主な要因

リスト

魚津総合公園において、予備調査および本調査で記録した鳥類 61 種を分類順に記載した。予備調査でのみ確認された種に関しては確認日と個体数を付記した。また、富山県の絶滅危惧種に指定されている種はそのカテゴリーを付記した。なお、学名は日本鳥類目録第 7 版（日本鳥学会，2012）に拠った。

GALLIFORMES キジ目

PHASIANIDAE キジ科

Phasianus colchicus キジ

ANSERIFORMES カモ目

ANATIDAE カモ科

Anas zonorhyncha カルガモ

COLUMBIFORMES ハト目

COLUMBIDAE ハト科

Columba livia カワラバト(ドバト)

Streptopelia orientalis キジバト

PELECANIFORMES ペリカン目

ARDEIDAE サギ科

Ardea cinerea アオサギ

CUCULIFORMES カッコウ目

CUCULIDAE カッコウ科

Cuculus optatus ツツドリ

Cuculus canorus カッコウ

APODIFORMES アマツバメ目

APODIDAE アマツバメ科

Apus pacificus アマツバメ

CHARADRIIFORMES チドリ目

CHARADRIIDAE チドリ科

Charadrius placidus イカルチドリ

準絶滅危惧

Charadrius dubius コチドリ

準絶滅危惧

SCOLOPACIDAE シギ科

Gallinago gallinago タシギ

Heteroscelus brevipes キアシシギ

(2016年5月6日 1羽)

Actitis hypoleucos イソシギ

準絶滅危惧

LARIDAE カモメ科

Larus ridibundus ユリカモメ

Larus crassirostris ウミネコ

Larus argentatus セグロカモメ

ACCIPITRIFORMES タカ目

ACCIPITRIDAE タカ科

Milvus migrans トビ

Buteo buteo ノスリ

PICIFORMES キツツキ目

PICIDAE キツツキ科

Dendrocopos kizuki コゲラ

Dendrocopos major アカゲラ

Picus awokera アオゲラ

FALCONIFORMES ハヤブサ目

FALCONIDAE ハヤブサ科

Falco tinnunculus チョウゲンボウ

PASSERIFORMES スズメ目

MONARCHIDAE カササギヒタキ科

Terpsiphone atrocaudata サンコウチョウ

(2016年5月6日 1羽) 準絶滅危惧

LANIIDAE モズ科

Lanius bucephalus モズ

CORVIDAE カラス科

Cyanopica cyanus オナガ

(2016年5月6日 2羽)

Corvus corone ハシボソガラス

Corvus macrorhynchos ハシブトガラス

PARIDAE シジュウカラ科

Parus minor シジュウカラ

ALAUDIDAE ヒバリ科

Alauda arvensis ヒバリ

(2016年6月16日 1羽)

HIRUNDINIDAE ツバメ科

Hirundo rustica ツバメ

Delichon dasypus イワツバメ

PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

Hypsipetes amaurotis ヒヨドリ

CETTIIDAE ウグイス科

Cettia diphone ウグイス

AEGITHALIDAE エナガ科

Aegithalos caudatus エナガ

PHYLLOSCOPIDAE ムシクイ科

Phylloscopus coronatus センダイムシクイ

ZOSTEROPIDAE メジロ科

Zosterops japonicas メジロ

STURNIDAE ムクドリ科

Spodiopsar cineraceus ムクドリ

MUSCICAPIDAE ヒタキ科

Turdus cardis クロツグミ

(2016年4月25日 2羽)

Turdus pallidus シロハラ

Turdus chrysolaus アカハラ

(2016年4月25日 1羽)

Turdus naumanni ツグミ

Luscinia cyane コルリ

Phoenicurus aureoreus ジョウビタキ

Saxicola torquatus ノビタキ

(2016年4月16日 6羽)

Monticola solitaries イソヒヨドリ

Muscicapa griseisticta エゾビタキ

Muscicapa dauurica コサメビタキ

準絶滅危惧

Ficedula narcissina キビタキ

Cyanoptila cyanomelana オオルリ

PASSERIDAE スズメ科

Passer montanus スズメ

MOTACILLIDAE セキレイ科

Motacilla cinerea キセキレイ

Motacilla alba ハクセキレイ

Motacilla grandis セグロセキレイ

FRINGILLIDAE アトリ科

Fringilla montifringilla アトリ

Chloris sinica カワラヒワ

Pyrrhula pyrrhula ウソ

Coccothraustes coccothraustes シメ

Eophona personata イカル

EMBERIZIDAE ホオジロ科

Emberiza cioides ホオジロ

Emberiza rustica カシラダカ

Emberiza spodocephala アオジ

魚津水族博物館年報 第 28 号

ANNUAL REPORT OF AQUARIUM No.28

2019 年 8 月 編集

編集／魚津水族博物館

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390

TEL (0765) 24-4100

FAX (0765) 24-4128

HP <http://uozu-aquarium.jp>

E-mail suizoku@city.uozu.toyama.jp